

建材再資源化で連携

大和リース・東京製鉄など

大和リース（大阪市中央区）と鉄スクラップ商社のナベシヨー（同）、東京製鉄は21日、使用済みの建築部材を再資源化し活用する「建材アップサイクルコンソーシアム」協定を締結する。

大和リースでは2019年に年約236トの使用済みリース建築物用外壁が発生した。現在のリサイクル率は49%にとどまるが、今回の協定で23年春には96%に高める計画だ。連携では電炉大手の

東京製鉄が使用済み外壁を鉄源としてリサイクルし、できた鋼材を大和リースが購入して柱などに製品化。ナベシヨーは排出から納入までを管理する。

電炉材は製造時の二酸化炭素（CO₂）排出量が高炉材の約25%。鉄スクラップに新たな価値を付与し循環型経済の確立に寄与する。